番　号　C 14　　最終更新日：　2019 年 4 月 5 日

活動名称 (40字以内)	光学・量エレ系研究室短期体験		
団体名等	生産技術研究所　光物質ナノ科学研究センター　志村研究室		
活動区分	□ ボランティアなどの社会貢献活動 □ 国際交流体験活動 □ 就労体験活動 □ 農林水産業・地域体験活動 □ フィールドワーク体験活動 ■ 研究室体験活動	選考方法	□ 先着順 ■ 書類審査 ■ 面接
		募集人数	1　人
参加資格等	学部学生		
活動期間	2018年7月　～　9月 2 週間	主な活動場所	駒場IIリサーチキャンパス生産技術研究所 光物質ナノ科学研究センター　志村研究室
目的	一定期間研究室で職員・大学院生等と活動を共にし、大学での研究がどのように行われているのかを、実際に体験してもらう。		
具体的な内容 (800字程度)	理系の学部学生は、4年になって卒業研究のために研究室に配属されるまでは、講義と学生実験が主な勉学の形態である。研究室における活動がどのようなものであるかは、先輩等から耳知識としては入ってくるが、実際に体験できる機会は非常に限られている。卒業研究および大学院での研究活動をスムーズに進めるため、早い時期に研究室配属の経験をしておくことは、意義があると考える。 期間的には非常に短く、実際の実験や計算を行うことは難しいので、ともかく朝から晩まで研究室に滞在し、職員、大学院生の活動に触れ、研究活動とはどういうものであるかを体感することを主な活動とする。基本的に研究室のイベントには全て参加させる。考えうる活動としては、 ・研究室全体の研究打合せ、・個別テーマごとのミーティング、・文献検索、調査、・輪講 ・研究報告会(進捗発表)、・計算機による数値解析、・実験、測定、・測定データ解析、・データのvisualization、・実験装置設計、製作、調整、・購入物品の選定、発注、・論文執筆、・学会発表準備(口頭発表、ポスター発表)などがある。 原則として各受講生は大学院生1名とペアを組ませ、その補佐を行わせる。大学院生にとっては余計な任務が増える、という見方もできるが、他人を指導するという経験は大学院生にとっても良い教育になると考えられる。 十分な安全管理を施したうえで、かつ可能な範囲で、ペアとなった大学院生の助手として、実際に実験や測定を行わせることもありうる。 2週間の体験の後、自分がペアを組んだ大学院生の研究の目的、価値、課題、実験手法、成果等の概要を理解し、5分程度のプレゼンテーションができるようになることを目指す。 当研究室は光学・量エレ系なので、光学の研究室に特有の研究装置、研究手法を体験してもらうことになる。		
備考	特記事項なし		
参加するための費用※	内訳(1名当たり) 交通費　円 宿泊費　円 (　)　円 (　)　円 計　0　円	その他※特記事項は以下に記載 奨励金額　なし　円	
ウェブサイト等	生産技術研究　志村研究室：　http://qopt.iis.u-tokyo.ac.jp/pub/index.html		